

## 成果の説明書

(氏名) 丸山奈穂	(学部) 地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>① 研究</p> <p>➤ 論文の執筆、投稿 富岡製糸場における工女の表象に関する論文1件 (Journal of Sustainable Tourism)、外国人街の観光地化に関する論文1件、富岡製糸場周辺住民の観光地化に関する考えに関する論文1件 (すべて地域政策研究) が受理された。</p> <p>② 教育</p> <p>➤ 日中韓ポスターの作成、公募展への応募 観光プロモーション論において、日中韓観光大臣会合関連行事「日中韓未来世代フォーラムアイデア公募展」のための作品 (ポスター、動画、企画書のいずれか一つ) を3人1グループで作成し、全員が応募した。1グループが国内予選を通過し、本選ポスター部門で最優秀賞を獲得した。</p> <p>➤ オンラインによる小テストの実施 昨年に続き、Google Form を使った小テストを実施した。プリントアウトしたものも持参し、スマホなどが使えない、送信できないなどの場合に備えたが、今年度はトラブルがなかった。テスト時間を守るために、解答受付時間をあらかじめ制限して行った。採点時間の短縮および採点ミスの防止につながった。</p> <p>➤ アプリを利用した観光プロモーションの実施 観光プロモーション論の一環で、群馬県をプロモーションするという課題において、Instagram の利用をした。今年度は、閲覧数を増やすための方法を議論し、実践した。</p> <p>➤ 研究方法および論文執筆に関してリーフレットの作成および内容の向上 昨年度に引き続き、演習 I において、研究とは何か、という基礎的な知識から始まり、研究方法、アンケート票作成方法、論文の執筆方法などを複数の章に分けて資料を作成し、前期半ばより、一章ずつ説明をし、最後にまとめてリーフレットにした。昨年度のものに、実例を多く加え、より実践的なものにした。また、昨年度に作成したリーフレットは4年生の卒論作成時に使用した。</p> <p>➤ グループ研究および卒論のための研究の遂行、その他ゼミ活動 例年通り、演習 I では、グループ研究に取り組み、3グループそれぞれが、自ら選んだテーマに基づいた研究計画書の執筆、調査関係機関への協力依頼、調査の実施、報告書の完成までを終えた。卒論では、個々が選んだテーマに基づいて研究を実施した。3年次に行ったグループ研究での経験を応用し、全員が学外でデータを収集し論文を仕上げる事ができた。</p> <p>➤ ディスカッション、プレゼンテーション、プロジェクトの実施 各講義では毎回グループディスカッションを行い、学生が考え発言する能力を高める事ができた。グループでのプレゼンテーションを行い、与えられた課題のなかで、リサーチをする能力を付けた。文化観光政策論では、前半はグループでのディスカッション、後半は個人でのリサーチペーパーを執筆し、自分で問題提起をし、リサーチをする能力を付けた。</p>	
<p>2 その他の事項</p> <p>日中韓観光大臣会合関連行事「日中韓未来世代フォーラムアイデア公募展」指導教授賞受賞</p>	

### 3 次年度以降の計画・抱負

研究面では、これまでに日光および富岡でのデータに基づいて論文を執筆したい。また、外国人住民の増加とインバウンド観光の関連に関する論文を執筆する。教育面では、演習Ⅱにおいては、就職活動と卒論執筆の両立できるよう学生を励ましていきたい。人数が例年より多いため、一人ひとりへの指導がおろそかにならないよう努めたい。演習Ⅰにおいては、基礎演習からさらに踏み込んだ輪読を行いたい。基礎演習では、スムーズに演習Ⅰへ移れるような教育を行いたい。

すべての講義において、前期はオンラインでの授業が主になるため、取り残される学生が出ないように、シラバスをよりわかりやすくする、全員のログイン状況や課題提出状況をより細やかに確認するようにしたい。